

復興を記念して

—新潟大博覧会の開催と新潟県民会館の完成—

■新潟大博覧会の開催

地震から3年後の昭和42(1967)年、新潟県・新潟市などの主催で「開港100年・震災復興記念新潟大博覧会」が開催されました。開催期間は7月8日から8月31日で、関屋松波町の砂丘地を会場に行われました。博覧会は、新潟開港100年と新潟地震からの復興を記念して行われ、会場内には「開港100年新潟港館」や「新潟地震復興記念館」が設けられました。このほか、国内外の近代科学、経済、産業を紹介する「電気科学館」などの施設も設けられました。この博覧会の開催は、新潟地震からの復興と発展を印象づけました。



新潟大博覧会会場



観覧車と50mプール

■新潟県民会館の完成

昭和42年、旧白山野球場跡地に新潟県民会館が開館しました。総工費は12億円で、この財源には全国から寄せられた新潟地震への見舞金が使用されました。

建物は地下1階、地上4階建てで、館内には大ホール、小ホール、資料展示室兼震災記念ホールを完備し、新潟県美術博物館を併置しました。また、新潟大博覧会で展示された石膏像「大地裂くるも子らを放さじ」と同じ題材のセメント造彫刻が敷地内に設置されるなど、新潟地震の記憶を今に伝えています。



開館当時の新潟県民会館